



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年2月3日

上場会社名 株式会社いなげや 上場取引所 東
 コード番号 8182 URL <http://www.inageya.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 成瀬 直人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役IR担当(兼) (氏名) 大庭 寿一 TEL 042-537-5111
 グループ管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	181,528	4.6	2,457	106.1	2,754	83.2	1,500	103.2
26年3月期第3四半期	173,492	3.6	1,192	△39.4	1,503	△32.8	738	△9.9

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 2,496百万円 (141.8%) 26年3月期第3四半期 1,032百万円 (7.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	32.30	—
26年3月期第3四半期	15.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	104,080	50,800	48.4
26年3月期	89,048	46,381	51.7

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 50,338百万円 26年3月期 46,017百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
27年3月期	—	7.50	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	240,000	4.2	3,000	12.1	3,300	7.4	1,300	10.4	27.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期3Q	52,381,447株	26年3月期	52,381,447株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	5,943,651株	26年3月期	5,943,468株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期3Q	46,437,930株	26年3月期3Q	46,438,327株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
4. 補足情報	11
設備投資の状況	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策効果もあり企業収益は製造業では改善の動きが見られるとともに、雇用情勢の回復や所得環境が改善傾向にあるものの、懸念材料として消費者マインドの低下や海外経済の下振れによるわが国経済の景気を下押しするリスクがあり、景気の先行きは不透明な状況にあります。

小売業界におきましても個人消費に弱さが見られ、業種業態を超えた競争も激化しております。また、円安による原材料、建設コストの上昇や雇用情勢の改善による人手不足、電気料の値上げ等に伴う経費の増加などが深刻化し、厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、「食を通して地域に貢献するお役立ち業」を目指し、お客様のご要望の高い惣菜を中心とした店舗づくりを強化し、食を通じて新しいライフスタイルを創造し提案する売場づくりに取り組んでまいりました。また、地域で信頼される店舗を目指し、店舗を地域の文化交流、食を中心としたイベント開催等の場として提供し地域貢献を推進してまいりました。

当第3四半期連結累計期間における経営成績は、惣菜を中心とした生鮮強化への改装効果もあり、営業収益が1,815億28百万円（前年同四半期比4.6%増）、売上高が1,753億29百万円（同4.7%増）となりました。売上総利益率が0.4ポイント改善し、売上総利益は488億14百万円（同6.6%増）と増益を確保いたしました。改装に伴う費用や電気料値上げによる水道光熱費の増加などにより販売費及び一般管理費は、525億56百万円（同3.7%増）と増加いたしました。

その結果、営業利益は24億57百万円（同106.1%増）、経常利益は27億54百万円（同83.2%増）、四半期純利益は15億円（同103.2%増）となりました。

当社グループにおけるセグメント別の状況は次のとおりです。

[スーパーマーケット事業]

平成26年4月にスタートした中期2ヶ年経営計画のもと、店舗を起点とした事業を展開し真の地域のお役立ち業の実現を目指し、経営資源を再配置し強固な収益体制を確立し、一層の収益安定化に努めてまいりました。

営業政策としては、地域のお客様の暮らしぶりをどのチェーンよりも理解し、欲しい商品が沢山ある売場を実現し、商品も売場も従業員もお客様の健康を意識し、楽しい、美味しそうな、鮮度感あふれる、地域のお客様にとって無くてはならない店づくりの具現化を進めてまいりました。また、強い個店づくりを目指し、自店のお客様を理解し特性をつかんだ売れ筋商品の展開を行い、お客様に支持される店づくりに努めてまいりました。

さらに、お客様により近づいたサービスを提供するため店舗を起点とした宅配サービスのエリア拡大を順次行ってまいりました。また、当社独自のポイントシステムを持つ「ing・fan(アイエヌジー・ファン)カード」を活用した販売促進も継続的に強化するなど、引き続き固定客拡大にも努めてまいりました。

設備投資といたしましては、(株)いなげやでは既存店の活性化を引き続き推進し、11月に横浜星川駅前店（横浜市保土ヶ谷区）、君津店（千葉県君津市）、12月に福生銀座店（東京都福生市）など惣菜を中心とした生鮮強化への改装を42店舗実施し、一方で建て替えに伴い1店舗を閉鎖いたしました。(株)三浦屋では7月にグルメ花小金井駅前店（東京都小平市）を開設し10店舗となりましたので、当第3四半期連結会計期間末での店舗数は、惣菜単独店の2店舗とあわせて147店舗となりました。

売上高につきましては、概ね堅調に推移し、既存店売上高が前年同四半期比3.4%増となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント別売上高は1,474億55百万円（前年同四半期比5.7%増）、セグメント利益は17億11百万円（同552.8%増）となりました。

なお、当社は、連結子会社であった(株)クックサンを平成26年4月1日付で吸収合併いたしました。当該合併により惣菜部門と生鮮部門など他の部門との連携をさらに強化し、また、グループ事業全体の経営資源の集中と効率化をはかることで、「惣菜強化」を柱とした営業力強化に全社をあげて取り組んでおります。

[ドラッグストア事業]

収益力の拡大のため、チラシ部数の増刷やクーポン券の発券、主力分類の販売強化に取り組んでまいりました。また、店舗主導型への転換に向け、ジョブ・ローテーションによる人材開発に注力してまいりました。

設備投資といたしましては、11月に川崎王禅寺店（川崎市麻生区）、清瀬中清戸店（東京都清瀬市）、小金井前原町店（東京都小金井市）の3店舗を新設のほか、10月に墨田立花店（東京都墨田区）、八王子堀之内店（東京都八王子市）、相模原清新店（相模原市中央区）など17店舗を改装し、リピート率を高めるために食品売り場を拡大し価格競争に対応しつつ、集客力の向上を目指してまいりました。一方、1店舗を閉鎖いたしましたので、当第3四半期連結会計期間末での店舗数は、115店舗であります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント別売上高は267億87百万円（前年同四半期比0.2%減）、セグメント利益は7億42百万円（同3.0%増）となりました。

〔小売支援事業〕

デイリー食品を製造している(株)サンフードジャパンは、原材料の見直し、製造工程の見直しを進めて効率経営に取り組んでまいりました。(株)サビアコーポレーションは(株)トスと平成26年4月1日付で合併し、ショッピングセンターの運営・管理、警備・清掃、店舗施設の保守などを行っており、小売支援サポーターとしてグループ内の業務効率化を推進して、いなげやグループの企業価値向上を図っております。障がい者雇用の推進を目的とした特例子会社(株)いなげやウィングでは労務の提供により店舗業務の支援に努めてまいりました。農産物の栽培生産を通じて農業経営を行っている(株)いなげやドリームファームは、「直接生産による顔の見える商品づくり」を行いグループ店舗での販売によって地産地消を具現化することで地域の活性化を推進しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント別売上高（外部顧客売上高）は10億87百万円（前年同四半期比0.6%減）、セグメント利益は16百万円（同95.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末日が金融機関休業日にあたり、末日期限決済分を翌営業日に決済しておりますため、買掛金などの未払債務の末日期限未決済分の負債とそれに対応する手許流動性資金の資産が共に両建てで膨らんでおり、その影響額は123億39百万円であります。

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ150億32百万円増加し、1,040億80百万円となりました。

流動資産は、144億89百万円増加し、431億11百万円になりました。これは主に、余資の運用である有価証券が125億49百万円、現金及び預金が16億68百万円、売掛金が10億67百万円それぞれ増加した一方で、流動資産のその他（未収入金など）が14億80百万円減少したことによるものです。

固定資産は、5億43百万円増加し、609億69百万円になりました。これは主に、有形固定資産が12億59百万円増加した一方で、投資その他の資産が6億88百万円減少したことによるものです。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ106億13百万円増加し、532億80百万円になりました。

流動負債は、159億24百万円増加し、439億50百万円になりました。これは主に、買掛金が136億84百万円、短期借入金が6億円、流動負債のその他（未払金など）が31億88百万円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が9億35百万円、ポイント引当金が3億54百万円、1年内返済予定の長期借入金が2億9百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定負債は、53億11百万円減少し、93億29百万円になりました。これは主に、退職給付に係る負債が40億58百万円、長期借入金が11億60百万円それぞれ減少したことによるものです。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ44億19百万円増加し、508億円になりました。これは、利益剰余金が34億2百万円、その他の包括利益累計額が9億18百万円それぞれ増加したことによるものです。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ3.3ポイント下がり、48.4%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ平成26年5月7日に公表いたしました平成27年3月期の通期連結業績予想を修正しております。なお、詳細につきましては、本日別途公表いたしました「平成27年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計方針の変更）

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が40億73百万円減少し、利益剰余金が25億99百万円増加しております。

また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1億51百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,193	5,862
売掛金	2,409	3,476
有価証券	8,000	20,549
商品及び製品	7,858	8,512
仕掛品	9	4
原材料及び貯蔵品	231	265
その他	5,920	4,439
流動資産合計	28,621	43,111
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,712	12,673
土地	20,187	20,187
その他(純額)	5,052	6,351
有形固定資産合計	37,953	39,212
無形固定資産		
のれん	1,557	1,482
その他	1,539	1,586
無形固定資産合計	3,096	3,068
投資その他の資産		
投資有価証券	4,852	6,011
差入保証金	10,525	10,095
その他	4,002	2,584
貸倒引当金	△4	△3
投資その他の資産合計	19,376	18,688
固定資産合計	60,426	60,969
資産合計	89,048	104,080
負債の部		
流動負債		
買掛金	15,478	29,162
短期借入金	-	600
1年内返済予定の長期借入金	2,038	1,828
未払法人税等	1,115	179
資産除去債務	49	-
ポイント引当金	1,422	1,068
その他	7,922	11,111
流動負債合計	28,026	43,950
固定負債		
長期借入金	3,399	2,238
退職給付に係る負債	4,721	663
資産除去債務	3,111	3,086
その他	3,407	3,340
固定負債合計	14,640	9,329
負債合計	42,666	53,280

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,981	8,981
資本剰余金	13,598	13,598
利益剰余金	29,283	32,685
自己株式	△6,118	△6,118
株主資本合計	45,743	49,146
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,669	2,414
退職給付に係る調整累計額	△1,395	△1,222
その他の包括利益累計額合計	273	1,192
少数株主持分	363	461
純資産合計	46,381	50,800
負債純資産合計	89,048	104,080

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業収益	173,492	181,528
売上高	167,429	175,329
売上原価	121,624	126,514
売上総利益	45,804	48,814
営業収入	6,063	6,199
営業総利益	51,868	55,013
販売費及び一般管理費	50,675	52,556
営業利益	1,192	2,457
営業外収益		
受取利息	52	48
受取配当金	78	82
助成金収入	77	101
その他	166	127
営業外収益合計	374	359
営業外費用		
支払利息	56	48
その他	7	14
営業外費用合計	64	63
経常利益	1,503	2,754
特別損失		
固定資産処分損	29	72
特別損失合計	29	72
税金等調整前四半期純利益	1,473	2,681
法人税、住民税及び事業税	603	545
法人税等調整額	56	560
法人税等合計	659	1,105
少数株主損益調整前四半期純利益	813	1,575
少数株主利益	75	75
四半期純利益	738	1,500

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	813	1,575
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	218	745
退職給付に係る調整額	-	174
その他の包括利益合計	218	920
四半期包括利益	1,032	2,496
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	956	2,418
少数株主に係る四半期包括利益	75	77

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はございません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

平成26年4月1日付で、連結子会社の株式会社クックサンは当社に、連結子会社の株式会社トスは連結子会社の株式会社サビアコーポレーションにそれぞれ吸収合併されたことに伴い、当該連結子会社2社を第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間の期首より、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、期首の利益剰余金の額が25億99百万円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケッ ト事業	ドラッグ ストア事 業	小売支援 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	139,489	26,846	1,093	167,429	—	167,429
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	5,533	5,534	△5,534	—
計	139,490	26,846	6,626	172,963	△5,534	167,429
セグメント利益	262	720	365	1,348	△156	1,192

(注) 1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を図っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケッ ト事業	ドラッグ ストア事 業	小売支援 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	147,455	26,787	1,087	175,329	—	175,329
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	4,952	4,953	△4,953	—
計	147,455	26,787	6,040	180,282	△4,953	175,329
セグメント利益	1,711	742	16	2,470	△12	2,457

(注) 1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を図っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度末より、従来「その他」としておりました「小売支援事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

このため、当第3四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分により作成しており、前連結会計年度の第3四半期連結累計期間に開示したセグメント情報の報告セグメントの区分との間に相違が見られます。

4. 補足情報

設備投資の状況

(1) 重要な設備計画の完了

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設のうち、当第3四半期連結累計期間において完了したものは、次のとおりであります。

セグメント名称	店舗名	所在地	開店日	売場面積 (㎡)	総投資額 (百万円)
ドラッグストア 事業	川崎王禅寺店	川崎市麻生区	平成26年11月14日	446	87
	清瀬中清戸店	東京都清瀬市	平成26年11月20日	589	148
	小金井前原町店	東京都小金井市	平成26年11月27日	571	98

(2) 重要な設備の新設計画

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は、次のとおりであります。

セグメント名称	店舗名	所在地	開店予定日	売場面積 (㎡)	総投資額 (百万円)
スーパーマーケット 事業	目黒八雲店	東京都目黒区	平成27年3月予定	600	300
	入谷店	東京都台東区	平成27年3月予定	900	350
	横浜南本宿店	横浜市旭区	平成27年3月予定	1,600	800
	グルメ丸井 吉祥寺店	東京都武蔵野市	平成27年3月予定	110	35
	グランエミオ 大泉学園店	東京都練馬区	平成27年4月予定	950	450
	川崎登戸店	川崎市多摩区	未定	1,900	1,000
	未定	川崎市麻生区	未定	1,900	3,500
	未定	東京都西東京市	未定	1,700	3,750
	2店舗	東京都・埼玉県	未定	未定	未定
ドラッグストア 事業	府中住吉店	東京都府中市	平成27年2月予定	500	100
	2店舗	東京都	未定	未定	未定